物心ついたころから大の牛好き

家族で畜産を営む家庭に三兄弟の次男として育った嵐太朗さんは、物心ついたころから大の牛好きでした。

「小さいころから、祖父の牛舎で遊び、祖父の手伝いをしていました。とにかく牛が大好きで、町の品評会にも行くほどでした」と幼少期の思い出を振り返る嵐太朗さん。

母親のゆかりさんも「三兄弟の中でも突出して牛が大好きな子でした」と当時を振り返ります。

一度は反対された就農

畜産のことを学びたいと農業高校へ進学希望があった嵐太朗さんでしたが、ご両親に反対されてしまいます。

「農業は甘くない。子どもには安定した職業に就いてほしい」と親心から反対したという父親の弘志さん。

鹿児島市内の高校へ進学し空手に打ち込んだ嵐太朗さんでしたが、畜産への夢を諦めきれず、ご両親を説得し、高校卒業後は宮崎大学畜産別科で、家畜人工授精師の免許を取得しました。

そして、20歳となった今年、町の新規就農者としての認定を受け、畜産農家として一人立ちを果たしました。

特別な牛を育てたい

祖父から受け継いだ牛舎には、約２００頭が飼養されています。

牛が1日で食べる干し草の量はおよそ15キロ。早いときは朝5時から餌やりが始まり、牛舎の掃除や牛の健康チェックなど、やることは様々。全ての作業を終えるころには夜の9時を過ぎることも。

「大好きな牛の世話なので全然苦じゃありません」と笑顔で話す嵐太朗さん。

飼養する上でのこだわりを聞くと、「僕は餌やりの度に干し草を変えるようにしています。そして干し草の種類も変えています。そうすることで、餌の好き嫌いがない健康な牛が育ちます」と話してくれた嵐太朗さん。

1・2＿せり市に出品した牛たち　3＿牛の身体を優しくブラッシングし体調チェックも怠りません　4＿干し草の他に独自にブレンドした飼料も与えます　5＿干し草を入れ替え、牛がどの程度食べたかを確認します　6＿慣れない取材に少し照れる嵐太朗さん